

X すぎる構文の意味—天使すぎるはなぜ言えるのか—

東京大学 [院] 佐藤らな

1. はじめに

「-すぎる」は非常に生産性が高く、動詞、形容詞、形容動詞に後接することが知られている。近年では主に口語表現において名詞にも後接する例が観察される。以下では、「-すぎる」が後接する構文を総称して「X すぎる構文」と呼び、X が動詞のものを「V すぎる構文」、形容詞・形容動詞のものを「A すぎる構文」、名詞のものを「N すぎる構文」と呼ぶ。

- (1) テレビを観すぎて目が痛い。
- (2) エチオピアのカレーが美味しすぎる。
- (3) 隣の家が静かすぎる。
- (4) アイドルが天使すぎる。
- (5) ケチャップがトマトすぎる。

V すぎる構文の記述・分析は由本の一連の研究（1997, 2005 など）に詳しい。語彙概念意味論に依拠した由本の分析では「段階性」が重要な役割を担う。V すぎる構文・A すぎる構文に関する先行研究の大部分は、由本の枠組みを採用している（e.g. 山川 2000）。比較的新しい言い回しである N すぎる構文については、これまで例を提示するのみで（cf. 中村 2005）詳しい分析は与えられていない。その上もし、N すぎる構文を由本の枠組みで考察したとしても、妥当な意味分析は不可能だと思われる。本発表では、由本の分析の問題点を指摘し、認知言語学的な観点に立つことで、X すぎる構文全体の説明が可能になることを示す。

2. 先行研究とその問題点

本節では X すぎる構文の先行研究として主に由本（2005）の分析を紹介する。由本は V すぎる構文の意味を以下のように定義している。

- (6) 「過ぎる」は統語構造内において統率する要素の中から [+gradable] 素性を探し、それをターゲットとして選択する。
(由本 2005: 264)

つまり、「-すぎる」は、統語構造内の「段階性のある要素」を選択し、それに過剰の意味を「付加」する事になる。具体的には、(7) では段階性を持つ要素として「高く」が選択され、その過剰を意味し、(8) では、段階性を持つ要素として「大きい」が選択され、その過剰を意味するとされている。

- (7) ジェット風船が高く飛びすぎる。(=飛んだ高さが高すぎる) (由本 2005: 256)
- (8) 花子が大きいケーキを焼きすぎた。 (由本 2005: 265)
- (9) 花子は、*着きすぎた／花子は、早く着きすぎた。 (由本 2005: 256)

由本（2005: 256）は「着きすぎる」は瞬間相であり、行為の反復の頻度として解釈される可能性があるが、「語用論的に容認不可能」だとしている。そして「着きすぎる」は「早く」などの副詞がある場合のみ容認可能であることから、「-すぎる」は統語構造内の副詞などの修飾語に優先的に結びつく結論する。

一方、(10) のように統語構造内に副詞が存在しない場合には、由本は前項動詞の持つ意味構造の中から「段階性のある要素」を選択すると説明する。すなわち、動詞の意味をいわば分解して段階性を見つけ出すこと

で解釈可能になるということである。

(10) 彼は荷物を運び過ぎて、腰痛になったのだ。

(=荷物を運んだ [距離/回数/時間] が長すぎた、多すぎた) (=運んだ荷物が多すぎた) (由本 2005: 235)

由本によると、「-すぎる」の解釈プロセスは、①統語構造内の副詞や形容詞に過剰の意味を付加する、それができない場合に、②動詞の意味を分解して探し当てた段階性の要素に意味を付加する、という順序を持つ。由本 (2005: 226) で「-すぎる」は「「段階性」を含む事象としかなじまない」と述べていることからわかるように、由本の議論が成り立つには、統語構造内に段階性のある要素が存在することが必須である。

一方、由本 (2005: 355) は「たとえば、「走りすぎた」や「パンを作りすぎた」といっても、走った時間あるいは距離や作ったパンの量が、何を超えて行き過ぎているのかは表現されないのが普通で、その判断の基準は文脈から読み取られているか、あるいは、社会通念としての「標準」として解釈されているのである」と述べている。これは概ね正しいように思われる。だが、「何を超えて行き過ぎているのか」を判断する基準だけでなく、「-すぎる」がどの要素を選択するのかも、文脈や社会通念によって決まる場合があるのではないだろうか。(11) は、文脈によって、「綺麗な」を選択するのか、人の数量を選択するのかが決まる。

(11) 綺麗な人を雇いすぎて、[仕事にならない/全員にさせる仕事がない]。 (井本 2008: 367)

由本のモデルでは、まず段階性のある要素が優先的に選ばれ、文脈に照らして解釈の自然さが判断される。容認されない場合には他の要素が選択され、再び文脈に照らして判断される。これは明らかに冗長なプロセスである。あらかじめ文脈を参照すれば、選択される要素もどの点で「行き過ぎ」なのかも定まるのである。

3. V すぎる構文の意味

我々は、ある言語表現によって示される事物の典型的なありかたに関する知識を持っている (Lakoff 1987)。その「典型」はプロトタイプと呼ばれ、ある語の意味はプロトタイプを中心にネットワークを築いている。あるカテゴリーのプロトタイプは、個別の典型事例そのものではなく、我々の一般的な知識 (百科事典的知識) に基づいて構成されている (斎藤他編 2015: 35)。野矢 (2011: 403) は、プロトタイプに関わる通念を「典型的な物語」と呼び、「ある概念を理解するとは、その概念のもとに開ける典型的な物語を理解すること¹」なのだという。次の (12) はボロボロになったぬいぐるみを題材とした写真集のタイトルである。

(12) 愛されすぎたぬいぐるみたち

この表現は「ぬいぐるみを愛する」の開く物語すなわち、「たくさん抱きついたり遊んだりして、その結果ボロボロになることがある」という知識の元で解釈されるだろう。これは、ボロボロになったぬいぐるみの写真集を「愛する」にまつわる知識の元で見ることで、はじめて得られるものである。

¹ 「ある概念にまつわる通念を語り出すとき、そこに登場する他のものたちもまた、プロトタイプとなる」(野矢 2011: 411f)。「典型的な物語は芋づる式に、というよりもあらゆる方向に伸び、網目状に絡み合うものとなるのである。[中略] もしそれを [引用者注: 典型的な物語全体を] 表立って語り出そうとしたならば、手の届く範囲にスポットを当ててその一部だけを語ることになるだろう」(野矢 2011: 412)。

副詞や形容詞が「段階性のある要素として優先的に選択される」例は、「選択される」のではなく「焦点が当たる」のだと考える。どのような性質に焦点が当たる場合であっても、事象の百科事典的知識がベースとして喚起される。これは、要素が選択され、足し合わされて意味が決まることとは異なる。(11)の「綺麗な人を雇いすぎて、仕事にならない」は、文脈によって「綺麗な」に焦点が当てられるとしても、それが「仕事にならない」ことを導くためには、ベースとして「綺麗な人」に関する物語が喚起される必要がある。少なくとも「綺麗」を選択するという手続きだけでは、この解釈が優先される理由が説明できないのである。何に焦点が当たるかは、主に文脈に依存するのであり、個々の語が持つ段階性によるものではない。副詞が明示されない(10)の例でも、同様のことが言える。「運びすぎた」のどのような側面に焦点が当たるとしても、様々な背景的知識が参照される。例えば頻度が焦点化された場合にも、それに伴って距離や時間も長くなることは背景として理解される。実際、頻度が高ければ距離や時間も長くなるだろう。

「ジェット風船」に関する物語を参照しない限り、「ジェット風船が高く飛び過ぎる」はその物語を開くことができない。ジェット風船は普通ある人の手元から上方へと音を立てながら移動するのであり、鳥や飛行機の飛び方とは異なる。「ジェット風船が高く飛び過ぎる」は、「高く飛び過ぎる」という物語のいわば主役を指定するものである。ただし、両者の物語を単純に足し合わせたものではない。犬の散歩が排泄を含む点で人の散歩と大きく異なる(cf. 野矢 2016: 358)ことからわかるように典型的な物語は単なる部分の総和ではないのである。

過剰の意味が、何かしらの基準点を超えることであるとするのならば、この「典型」がその基準となるだろう。以上の議論から本発表では、Vすぎる構文の意味は(14)であると主張する。

(14) Vすぎる構文は、VPで表される事態の典型が基準点として設定される。(文脈などによって)焦点が当てられた性質が、その基準点を上回ることで過剰の意味となる。

典型的な事態が基準となるということは、その語彙項目がどのような環境に現れる単位として定着しているのかということとも関連する。(10)にあげた「着きすぎる」は、そもそも「早く着きすぎる」というフレーズ以外で使用されることが極めて少ない²。由本が「着きすぎる」は副詞句を伴わない限り容認不可能³であると判断したのは、そもそも「着きすぎる」の用例の(ほぼ)全てが「早く」との組み合わせであることが原因の可能性がある。また、「難しく考えすぎる」は考える仕方が難しいのであって、考える対象や問題が難しいのではない。「難しく考える」というフレーズが定着し、その意味を知っているからこそ解釈可能なのである。これは段階性の有無では説明できない。分析可能性があったとしても、フレーズ全体が語彙項目として定着し独自の意味を持つことはありうる。

4. N/Aすぎる構文

² KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス少納言 <http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/> (最終閲覧日 2019/5/24) 検索文字列: 着きすぎ 14件中コーパスで「着きすぎる」を検索した結果、14件中9件が到着の意味であり、その全てが「早く着きすぎる」であった。残り5件は「落ち着きすぎ」1件は「地面に足が着きすぎ」であった。さらに、Googleで全文一致検索をすると「着きすぎる」が約15800件であったのに対し、「早く着きすぎる」が約13800件の検索結果が出た。後者の検索に前者は含まれるため、「着きすぎる」のほとんどが「早く」を伴っていることになる。2019/05/24 11:30 検索

³ 瞬間相であるため唯一あり得る解釈は頻度の過剰だが、それは語用論的に容認不可だという由本(2005: 256)の記述は明らかに不十分である。一般に瞬間相に分類される他の動詞について考えてみると、「(夜中に)起きすぎる」や「死にすぎる」などは容認度が高くはないものの、文脈が整えば解釈可能である。一方、「着きすぎる」は「早く」を伴わない限り容認性が著しく低い。このことから、「着きすぎる」の容認性の低さにはさらに別の説明が必要であるように思われる。

V すぎる構文に関する意味規定 (14) は、N すぎる構文にもおおよそ適用可能である。名詞には一見、由本が重視する「段階性のある要素」は存在しないように思われる。あるいは、由本の枠組みでは名詞の場合、指示対象の数量が段階性のある要素として選択される(由本 2005:248)。しかし、(15)・(16)は、トイプードル (トイプードル) についてアイドルの数量が多いと解釈することは不可能であるし、「キムタク」は固有名であるのでその指示対象の数が増えることはない。(4) の「アイドルが天使すぎる」も同様である。

(15) うちのトイプードルがアイドルすぎる

(16) 髪型がキムタクすぎる

N すぎる構文の意味は名詞が持つカテゴリーの「性質」の過剰であり、名詞の意味内容全体が関与している。我々は、モノを指示する際にも、モノに関するプロトタイプを中心とした百科事典的知識 (典型的な物語) を参照している。例えば、カタツムリとエスカルゴは対象としては同一であるが、カタツムリは庭にいる生き物として、エスカルゴは食べ物として捉えるのが普通だろう。あるモノを指示する時に、「それが一体どういうものなのか」という知識がなければ何を指示してよいのか分からないはずである。名詞が N すぎる構文で用いられる際には「モノ (X)」から「モノの性質 (Y)」へと焦点が移るプロファイルシフトが起きていると考えられる。例えば、「アイドルが天使すぎる」の場合、「天使」の指示対象ではなく、百科事典的知識の中の何らかの性質 (例えば可愛らしさ) に焦点が移動している。これだけであれば、由本の枠組みであっても名詞に性質の束を想定し、その中の 1 つに過剰の意味が付加されるとすることで同様の分析が可能であるかもしれない。しかし、焦点が当たるのは何らかの性質だとしても、それと同時にアイドルや天使の物語が喚起されているのである。このことは、「天使すぎる」と「かわいすぎる」が意味的に等価にならないことから示される。「天使」は、ある女性が可愛いことを意味して「彼女は天使だ」と言えるように、モノの性質を表す用法が定着している。これは N すぎる構文で使用するのに違和感が少ないことを裏付けている。また、A すぎる構文 (e.g. 甘すぎる、静かすぎる) の場合も、「基準点」となるのはプロトタイプである。これは (14) で示した V すぎる構文の意味解釈についての主張と矛盾しない。

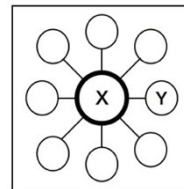


図1：モノを指示

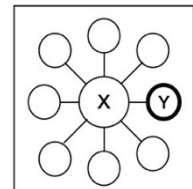


図2：モノの性質を指示

5. おわりに

X すぎる構文は、X に入る語や句の指示対象プロトタイプが基準点として設定される。文脈によって焦点が当てられた性質がその基準点を超えることで過剰を意味する。このように考えるならば、「段階性」という素性を想定せずとも、統一的な分析が与えられる。また、「天使すぎる」のような N すぎる構文が容認可能であることも問題なく説明可能である。

【参考文献】井本亮 (2008) 「限界点を越える—「V すぎる」の意味計算と解釈コスト—」岩本遠億 (編) 『事象アスペクト論』 323-368, 東京: 開拓社。/ 齋藤純男他 (編) (2015) 『明解言語学辞典』 東京: 三省堂。/ 中村嗣郎 (2005) 「すぎる構文: 書き言葉における実例の分析」『コミュニケーション科学』 (東京経済大学) 22: 139-177。/ 野矢茂樹 (2011) 『語りえぬものを語る』 東京: 講談社。/ 野矢茂樹 (2016) 『心という難問』 東京: 講談社。/ 山川太 (2000) 「複合動詞「～すぎる」について」『日本語・日本文化』 (26) 29-47 大阪: 大阪外国語大学留学生日本語教育センター。/ 由本陽子 (1997) 「動詞から動詞を作る」影山太郎・由本陽子著『語形成と概念構造』 東京: 研究社。/ 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』 東京: ひつじ書房。/ Lakoff, G. (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Univ. of Chicago Press. (池上嘉彦他訳(1993)『認知意味論』 東京: 紀伊國屋書店。) / 引用 (12) マーク・ニクソン。『愛されすぎたぬいぐるみたち』 訳 金井真弓。東京: オークラ出版, 2017。 / (15) 道雪葵。『うちのトイプードルがアイドルすぎる。』 東京: KADOKAWA, 2018。